【演習②】

企業サイドの視点から見た就労支援・雇用管理の課題をワーク等も通じ、体感する演習

【レポートのテーマ】

講義・演習での「気づき」や「心に残ったキーワード」から見えてきた“私の強みを活かした就労支援”

レポート総評:横河電機 箕輪優子

1. はじめに

103名全員のレポートを拝見しました。「気づき」と「これから取り組もうとしていること」について、具体的で且つエネルギーを感じる内容で、日々の支援活動が目に見え、感激しました。私も、皆さんから多くの良い刺激をいただきました。まずは、皆さんとの出会いに感謝申し上げます。

以下、皆さんの「心に残ったキーワード」をもとに、まとめていきます。

2. コミュニケーションについて

多くの方から「正確で具体的な伝え方を心がける」「相手の立場や理解度を考慮した配慮あるコミュニケーションが重要」「伝える側の責任」という気づきを共有いただきました。さっそく、レポート作成においても実践している方が多く、皆さんが「伝えたいこと」を、私なりにスムーズに受けとめることができました。

3. 合理的配慮について

「障害の有無に関わらず、誰もが働きやすい環境を作る」「誰かのリクエストが、多くの人の働きやすさにつながる」ということに共感していただいた方も多かったようで、とても嬉しく思います。

4. 支援について

「小さな変化に気づき、強みを見つける」「継続的な学びと成長を促す」など、就労支援においても重要な視点だということにあらためて気づいた方も多かったようです。

「真のニーズを本人から引き出す」「固定観念にとらわれず柔軟な考えを持ち続ける」ことを強調している方も多くいらっしゃいますが、支援を必要としている方との信頼関係を築く上で肝要なことだと思います。

これまでの支援について振り返り、効果的な活動は継続しつつ、必要に応じて随時改善をしていこうという意識を持ち続け、実行していくことは、簡単なようで難しいことなのかもしれません。そのため、受講者の方の中には、現在、自己肯定感が低くなっている方もいらっしゃると感じました。そのような方には、今回の研修が、ある視点では「弱み」と感じることで、環境が変わったり、視点を変えたりすることで「強み」になるということ、あらためて考えるきっかけになると嬉しいです。ご自身の「強み」を再認識していただき、他者や他組織と連携しながら「強み」を活かすことで、より効果的な支援を実践することができるのではないのでしょうか。

5. 他者との交流がもたらす新たな視点と多様な価値観

「意識の持ち方や考え方を変える良い機会になった」「演習はゲーム感覚で面白く、とても興味深い内容だった」などの感想からも、皆さんが、積極的に学び、成長し続けようという意志が伝わってきます。

これからも、皆さんが、属性を問わず様々な方と交流し、多様な価値観に触れることで新たな発見があり、また別の方の新たな価値観に繋がっていく。そのような好循環で、より良い支援の輪が広がっていくことに期待がふくらみます。

6. 最後に

私も、研修内での皆さんのご意見や研修後のレポートから多くの気づきがあり、これからの活動に活かしていこうと、あらためて思いました。

最後になりますが、演習を一緒に盛り上げていただいた皆さん、研修講師という貴重な機会をご提供いただきましたダイバーシティ就労支援機構の皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

以上